

## 第2学年西組 暮らし（国語）学習指導案

学習指導者 金崎 知子

### 単元 「わたしたち，”町のひみつ”たんけんたい」

#### 1 本単元における暮らし（国語）のねらい

国語への 関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと の能力	言語についての 知識・理解・技能
紹介したい物の様子を分かりやすく伝えるための話し方を考えたり，分からないことを尋ねたりしようとする。	分かりやすく伝えるために，話す事柄の順序や表現を考えながら話す。物の様子を思い浮かべながら聞き，相手の説明の中で分からないところやさらに知りたいことを尋ねる。	はっきりとした発音で，相手が聞き取りやすい声の大きさを意識して話すことができる。

#### 2 単元と暮らし（国語）について

##### （1）教材開発について

本単元は，生活科の「町探検」を核とし，町の商店街や公共施設・公共物等を調べて気付いたことや思ったことを表現していく過程で，自然や地域とのかかわり方に対する認識を深め，人との交流を深めていくことをねらいとする。

子どもたちは，身近な場所を繰り返し探検する中で，様々な発見をしたり，町の人々の工夫に気付いたりしていく。そして，それらを友達や家族の人たちにもぜひ知らせたいという願いをもつ。しかし，自分が見たり考えたりしたことを伝えようとするとき，思いつきで話したり，抽象的な表現になってしまったりするため，うまく伝わらないことも多い。そこで，暮らし（国語）を位置付け，前単元「まよい犬をさがせ-もののようすをわかりやすくつたえましょう-」で学習したことを基に，ものの様子を分かりやすく伝える表現方法について考えていく。

本単元では「物事を説明する際には，全体から部分への順で行う」「具体的なことばを使う」といった思考様式を繰り返し活用する場を設けることで定着を図っていく。その際，単調な繰り返しにならないように，「まよい犬をさがせ」のもつクイズ的な要素を生かすことによって，楽しみながら思考活動を行うことができるようにする。

##### （2）教材の組織について

子どもたちの表現は，紹介したい対象がはっきりしていなかったり，対象を捉える観点がぼやけていたりするために，抽象的なものになってしまうことが多い。そこで，単元「教えてあげる，たからもの」の学習との関連を十分に図ることによって，紹介したい事柄を捉える観点をはっきりともって情報収集させ，探検カードにまとめさせる。また，自分が興味をもった場所を対象を絞り，繰り返し探検することによって紹介したい事柄をはっきりもたせたい。

思考様式を学ぶ段階では，本校を中心とする坂出の町探検を行い「お家の人を招待して，町のひみつ発表会をしよう」という相手意識・目的意識をもたせることにより，分かりやすく伝えたいという意欲化を図る。思考様式を転移・活用する段階では，校区をもたず，子どもたちの生活圏が様々であるという環境を生かし，「自分の住んでいる町探検で見つけたひみつを友達に紹介しよう」と対象を広げ，相手意識を変えることにより追究意欲を継続させる。こうした工夫により，思考様式の転移・活用を繰り返し，「思考力」の習熟をめざしたい。

### 3 単元計画（総時数36時間）

学校のまわりを探検しよう パート（8時間）  
 ふだん目にする学校周辺にある物を紹介し合い探検計画を立てる。  
 学校周辺を探検する。  
 探検して見付けた、商店や公共施設、公共物を絵地図で表す。

探検で買い物をしよう（2時間）  
 町探検で買い物をする時の合計やおつりを求める。

学校のまわりを探検しよう パート（20時間）  
 町探検の計画を立てる。

探検でインタビューをしよう（1時間）  
 インタビューの仕方（挨拶・質問・お礼）について考える。  
 グループで町探検をする。  
 探検して見付けたひみつをまとめる。

分かりやすい紹介の仕方を考えよう（6時間）  
 「まよい犬をさがせ」を読んで、ものようすを分かりやすく伝える話し方や聞き方について考える。  
 「全体から部分へ」また「具体的な表現」で説明するという思考様式を使って身の回りの物を説明する。

発展的な学習  
 教師の紹介を基に、店や施設を紹介するときの説明の順序について考え、自分の紹介したい場所の説明に生かす。  
 【1日目 2/4】  
 「ベンチのことより、広さや緑に囲まれているという全体の様子から話す方が先だよ。」

「全体から部分へ」という思考様式を基に、紹介したい施設や商店について説明する事柄の順序を見直す。

紹介したい施設や商店について説明する際の表現について考える。  
 【2日目 3/4】  
 「たくさん」ではどのくらい多いのかが分かりにくいので、「150匹以上」という表現にするよ。」

「具体的な言葉を使う」という思考様式を基に、紹介したい施設や商店について説明する事柄の表現を見直す。

発展的な学習  
 写真の活用の仕方考える。  
 「～のことを伝えるためには、どの写真が合うかな。」  
 自分たちの伝えたいことが焦点化されるような写真を選ぶ。

お家の人を招待して「町のひみつ発表会」をする。

大切にしたいね 自分の町（1時間）  
 「ベンチの下」（公德心）  
 自分たちが町や町の人のためにできること考え実行する。

お礼の手紙を書こう（1時間）  
 学校探検でお世話になった人へお礼の手紙を書く。

自分たちの町を探検しよう（5時間）

発展的な学習  
 自分の住んでいる町を探検計画を立てる。  
 調べたことを紹介する原稿を書く。  
 調べたことを、全体から部分への順に説明したり、具体的なことばを使って表現したりする。  
 「自分の町探検発表会」をする。

単元編成の工夫  
 町探検の計画を立てる段階で、単元「教えてあげる、たからもの」で学んだ思考様式「大きさ、色、形、手触り等、様々な観点から物を捉える」を振り返らせ、見付けたものを捉える具体的な視点をもたせる。

お家の人を招待して「町のひみつ発表会」をしようという目的意識をもたせることで、分かりやすい紹介の仕方を考えようという意欲を高める。

教材文「まよい犬をさがせ」を基に、子どもたちに身の回りの物を説明するという活動を繰り返し経験させる中で、「全体から部分への順で説明する」「具体的な表現を使う」という思考様式をつくる。

会得した思考様式を使って、探検で見付けた商店や施設の紹介の仕方考えたり、自分の紹介に生かしたりする。

「学校周辺の探検」で見付けたひみつをお家の人に紹介する際に使った、ものの様子を分かりやすく説明するための思考様式を、「自分の町探検」で見付けたひみつをまとめる際にも転移・活用できるようにさせる。

詳しい単元計画については研究会当日にお配りします。

4 本時（1日目）の学習指導 【研究授業】

(1) 目標

「まよい犬をさがせ」で学んだ、ものの様子を分かりやすく伝えるための思考様式「全体から部分への順に話す」を基に、どのようにすれば自分の紹介したい場所の説明が分かりやすくなるかについて考えることができる。

(2) 学習指導過程

(教師の提示する資料を  で示す)

学 習 活 動	子 ども の 意 識
<p>1 提示された事柄を基に、町の中のどの場所について説明しているのかを話し合ったり、分かりやすいように順序を並べ替えたりする。</p>	<p>小さなひろばのまわりにはたくさんのもでできたベンチがある。 いろいろなきょうじができる小さなひろばがある。 まわりがもでかこまれた大きなひろばになっている。</p> <p>分かった、駅前のも場のことだね。でも、この説明の順番じゃ分かりにくいよ。 も場全体のことを話してから、その中にある小さなも場、ベンチの順に説明すると分かりやすいね。</p>
<p>探検場所の良さを分かりやすく紹介するには、どんな順で話せばいいのかな</p>	
<p>2 教師が紹介したい「香風園」について、どんな順に話せば分かりやすいかについて話し合う。</p>	<p>みどりにかこまれているのでしずかだ。 ベンチがあり、ゆっくり休める。 中はとてもひろいので、のんびりさんぽができる。 やねのついたたてもがあるのも、雨の日でも休めるし、まわりがとうめいなガラスなので中からもけしきをたのしめる。 いけのこいがすごい。</p> <p>「全体から部分へ」説明すると分かりやすかったね。 緑に囲まれていることと中がとても広いということは、どちらが全体について話していることなのかな。</p> <p>緑に囲まれているというのは、香風園の周りのことだから、中 のこより大きいことだよ。      広いというのは、全体の広さだから、大きいことだと思うよ。</p> <p>写真で見たり図にかいたりしてみるとよく分かるね。緑に囲まれている中に広くて散歩できるところがあるので、緑に囲まれているの方が大きいことだね。</p> <p>ベンチや屋根のある建物、鯉等はどれも中にある物のことだね。どの順がいいのかな。どれも部分のことだね。こんな時はどうしよう。</p> <p>一番伝えたいことから順に話せばいいよ。はじめに、話したことの方がよく覚えていてくれると思うよ。      私なら、一番最後にとっておきの所やものを紹介するよ。最後まで「すごいな」と思って聞いてくれるんじゃないかな。      その中でも大きいものから話せばいいんじゃないかな。大きい物の方が目につきやすいよ。</p> <p>池の鯉      ベンチ      屋根のある建物 屋根のある建物      屋根のある建物      池の鯉 ベンチ      池の鯉      ベンチ</p>
<p>3 自分の紹介する事柄について、説明の順序を見直す。</p>	<p>分がりやすくするために順番を見直してみよう。 &lt; A児の例 &gt; プレゼントよの花たばをつくるために、いとりどりのつつみがみやりボンがある。 花を入れるれいぞうこがある。れいぞうこに入れていつもおなじおんどにしておくとも、花がきれいでながもちする。 花やさんは、ちやいろのれんがのかべだからがい国のいえみたいだ。おもてはガラスどだから中の花が見えて入ってみたくなるよ。</p>
<p>4 同じ場所に探検に行った友達と説明し合い、互いの順序について確かめる。</p>	<p>まずは全体のことだから、表から見たお店の様子だね。 冷蔵庫の中に花が入っていたのにびっくりしたから、先に冷蔵庫について話してから、包み紙やりボンについて話そう。</p> <p>花屋さんは、お店の全体の様子からだんだん店の中の様子へと「全体から部分へ」の順になっているので花屋さんの様子が目に浮かんでくるよ。</p>

< 前時までの子どもの学びの様相 >

子どもたちは，紹介したい場所を選んで，発見したことや工夫などの伝えたい事柄をカードにまとめている。また，単元「まよい犬をさがせ」の学習を終え，ものの様子を分かりやすく伝えるための「全体から部分への順に説明する」「詳しく表現する」という思考様式を学んでいる。しかし，その思考様式を町探検の紹介に生かそうと意識している子どもは少ない。

教材開発と子どもの反応の組織化及び評価

【教材開発】《ゲームを通して楽しみながら思考様式を確認する》

「まよい犬をさがせ」の学習で学んだ，ものの様子を分かりやすく伝えるための思考様式を確認する。本時の学習全体が，思考様式を使って説明の順序を考えていくものであるため，ややもすると活動が単調になりがちである。そこで，場所当てクイズといったゲームを取り入れることで，楽しみながら思考様式を意識できるようにする。

探検した場所の様子をいくつかにまとめ，部分から全体の説明へと提示していく。それを基に，どの場所について説明しているかを当てる。その過程で，子どもたちは自然に場所や物の様子を思い浮かべることができ，説明の順序が分かりにくいことを実感することができる。

その後，教師がどの順にヒントを出していけば分かりやすかったかを考えることで，「全体から部分へ」説明すると分かりやすいという思考様式を確認する。

【反応の組織化】《写真や図を使って書かれた事柄が指しているものについて確認する

(意味の共有化)

説明されていることを一人一人がイメージしやすいように，どの子も行ったことのある香風園を取り上げる。そして，香風園について書かれた事柄(ベンチや鯉等)が何を指しているのかを考えていく。なぜならば，「全体から部分へ説明していく」という思考様式を働かせて順序を考えるためには，説明されているそれぞれの事柄が指しているものが何であるかということをはっきりと捉えさせておかなければならないからである。具体的には，それぞれを写真で確かめたり，図に表したりすることで，視覚的に捉えられるようにする。



周りの様子



中の様子



図

【教材開発】《カード操作を取り入れ，思考活動を視覚的に捉えられるようにする》

説明されている事柄をはっきりと捉えさせた上で，どの順に説明するのがよいのかを一人一人が考える時間を確保する。この時期の子どもにとって，頭の中だけの操作は難しい。そこで，教師が書いた紹介カードを一人一人に持たせ操作させる。このことにより，何度も読み返しながら順序を入れ替え，「全体から部分へ」の順に並べることができる。また，どうしても順番が付けられない事柄があることにも気付くことができると考える。

ごいけのこいがす	がいでできる。さんぼろ	中はとても広い	しめけしき雨がたので	もりのわががらひなまて	やねのがある	つべんちがめりゆ	かたいていしす	みどりにかすま
----------	-------------	---------	------------	-------------	--------	----------	---------	---------

【反応の組織化】《はっきりとした理由を説明しながら，考えを出し合う

(異同関係の明確化，優劣・整合性の吟味)

「緑に囲まれている」ということと「中はとても広い」ということのどちらがより全体のことにについて述べているかについては，子どもたちが判断に迷うところである。そこで，子どもたちが自分の考えを述べる際には，異同関係を明らかにするために，なぜそう考えたのかという理由まで説明させる。また，誰の考えと同じか，あるいはどこが違うのかをはっきりさせてから自分の考えを述べるようにさせる。さらに，その写真や図と結んで説明させることで，それぞれの考えの整合性を吟味する。

説明する事柄の順序性を考えるとき，探検で見付けたものという視点から考えると順序性が見つからないものが生まれてくる場合がある。例えば，ベンチと池であれば，公園の中にあるものと捉えるとどちらが先とも言えない。そこで，そのような場合には，自分なりの根拠をもって順序を決めさせ，考えを出し合わせる。そして，それぞれの考えを共通理解した上で，自分の説明の順序を考えさせる。

【教材開発】《一人で，また友達と思考様式を繰り返し活用する場の保障する》

学んだ思考様式は，繰り返し使うことによって定着していく。そこで，まず，カード操作を通して自分の紹介したい場所の説明の順序を考える場を設定する。さらに，同じ場所を探検した友達と説明し合い，「全体から部分へ」の捉えを確かめさせることで思考様式の定着を図る。

【評価】 方法：ワークシート，カード

B：自分の紹介文を学んだ思考様式に従って並べ直している。

A：Bに加え，その理由まで説明している。

< 判断基準 B 例 >

「茶色の煉瓦造りの建物」 「店の中」 「冷蔵庫」 「包み紙やりボン」

< 判断基準 A 例 >

「お店全体の様子の後，中の様子を説明する。冷蔵庫のことが一番伝えたいので先に説明する。」

4 本時（2日目）の学習指導 【研究授業】

(1) 目標

「まよい犬をさがせ」で学んだ、ものの様子を分かりやすく伝えるための思考様式「具体的な言葉を使う」を基に自分の説明の仕方を見直し、どのような言葉にすれば分かりやすくなるか考えることができる。

(2) 学習指導過程

(教師の提示する資料を  で示す)

学 習 活 動	子 ども の 意 識
<p>1 「全体から部分への順に話す」という思考様式を使って並べ直した紹介を発表する。</p> <p>2 教師が前時に修正した香風園の紹介を聞き、表現について話し合う。</p> <p>3 「すごい」という言葉を基にイメージすることを話し合い、様子がよく分かるようにするためにどうすればよいか話し合う。</p>	<p>全体から部分への順に説明できているね。 私もその花屋さんに行ってみたくになったな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みどりにかこまれているのでしずかだ。</li> <li>・ 中はとてもひろいので、のんびりさんぽができる。</li> <li>・ ベンチがあり、ゆっくり休める。</li> <li>・ やねのあるたてもものがあるので雨の日でも休めるし、まわりがとうめいなガラスなので、中からもけしきがたのしめる。</li> <li>・ いけのこいがすごい。</li> </ul> <p>香風園がどんな公園なのかよく分かるな。ぼくも休みの日に行ったことがあるよ。近くの人が散歩に来ていたよ。</p> <p>でも、池の鯉がすごいって言われて何がすごいのか分からない。先生はどんなことを伝えたいのかな。</p> <p>ぼくは、鯉がとっても大きいことを言いたいと思うよ。</p> <p>私は、ものすごくたくさんの鯉がいることを伝えたいのだと思うわ。</p> <p>赤や黒、金や銀、それに色々な色が混じった鯉もいたからそのことだと思ふな。</p> <p>『まよい犬をさがせ』でも勉強したけれど、「すごい」ということばは、聞く人によってイメージすることが違うんだよ。</p> <p>ぼくらは香風園の鯉を見たことがあるから、その時に自分がすごいなって思ったことが、先生の伝えたいことだと勝手に決めてたな。見たことのない人は、どんなことを伝えたいのかが分からないね。</p>
<p>4 自分の紹介の中で、様子の分かりにくい言葉を使っているところはないかを見直す。</p> <p>5 違う場所を探検した友達と読み合い、様子がよく分かる表現になっているかを確かめる。</p>	<p>どんなことばで説明すると様子がよく分かるのかを考えよう</p> <p>大きさを伝えたいんだから、何センチぐらいとか、ぐらいの大きさとか書けばよく分かるよ。</p> <p>「何匹ぐらい」と数を書くとみんなが同じようにイメージできるよ。</p> <p>どんな色の鯉がいるのか、詳しく書けばいいね。</p> <p>具体的な言葉で書くとよく分かるね。自分の紹介カードを見直してみよう。</p> <p>&lt; B児 &gt; 「大きな冷蔵庫」と言っても、どのくらいの大きさなのかが分からないから、「本箱2つ分くらいの大きさの冷蔵庫」に直すよ。</p> <p>&lt; C児 &gt; 「安いお菓子がたくさんある」では、どのくらい安いのが分かりにくいな。「5円や10円で買えるお菓子がある」のほうがよく分かるね。</p> <p>「大橋図書館にはたくさん本がある」ではどのくらいあるのかが分からないよ。何冊くらいあるの？</p> <p>そうだね。数はよく分からないのでもう一度図書館の人に聞いてくるよ。</p>



< 前時までの子どもの学びの様相 >

前時、単元「まよい犬をさがせ」の学習で学んだ、もの様子を分かりやすく伝えるための「全体から部分への順に説明する」という思考様式を使って、自分の紹介の仕方を見直してきた。しかし、自分たちが使っている抽象的な表現を具体的な表現に直す必要性に気付いている子どもは少ない。

教材開発と子どもの反応の組織化及び評価

【教材開発】《様々な意味をもつ「すごい」という言葉を基に話し合う》  
 ここでは「すごい」という言葉を取り上げ、その意味について考える。「すごい」という言葉には、鯉の「大きさ」「数」「色」等、違った視点が含まれているので、子どもたちは、はっきりとその違いを捉えて、具体的に説明することの大切さを実感できると考える。

【反応の組織化】《「すごい」という言葉のもつ意味について話し合う

(意味の共有化, 異同関係の明確化)

「すごい」という言葉が抽象的であり、何を意味しているのか分からないことに気付く子どもがいるだろう。しかし、共通体験として鯉を見ている子どもたちは、それぞれに自分が鯉を見たときの印象と「すごい」という言葉を結んで捉えてしまうため、すぐにはその子どもの質問の意図を理解できないかもしれない。そこで、その子どもの「何がすごいか分からない」という発言に対し、分からないことを質問させたり、どんなことを言おうとしているのか具体的に話させたりすることで、「すごい」という言葉は様々な視点に立って使うことができるということを共有化する。

さらに、「すごい」という言葉からどんなことをイメージしていたかを、鯉の写真と結んで具体的に話し合わせることにより、「大きさ」「数」「色」等の違った視点から捉えていたことを明らかにしていく。



大きさ



数



色

【反応の組織化】《どのような表現がよいかを見付けさせる (優劣・整合性の吟味)》

「大きさ」「数」「色」等のそれぞれの視点から「すごい」ことを伝えるには、どのような表現にすればよいか写真と結んで出し合い、ふさわしい表現を見付けさせる。

【教材開発】《自分の探検での経験を振り返り、表現を見直す》

まずは、自分の紹介カードを見直し、抽象的な表現になっている言葉を具体的な言葉に直す。その際、自分の探検カードや探検で撮ってきた写真で確かめることで、より具体的な表現を見付けさせたい。どうしてもふさわしい表現が見付からない子どもには、同じ場所を探検した友達と相談しても良いことを伝える。

さらに、より客観的な立場から振り返らせるために、違う場所を探検した友達とカードを読み合わせ、意味や様子の分からない言葉について質問したり説明したりさせる。

【教材開発】《修正した紹介カードを読み合い、相互評価する》

自分の紹介カードを修正するとともに、友達とカードを読み合うことで、何度も「具体的な言葉を使う」という思考様式を働かせるため、より確かに定着を図ることができる。しかし、言葉だけの評価では、すぐ消えてしまうため振り返りが困難になる。そこで、付箋紙を使って、分かりにくい言葉や修正後良くなった点を評価し合う活動を取り入れる。これによって、一人一人が学習したことの成果を実感できると考える。

【評価】 方法：紹介カード、付箋紙、発表

B：自分の紹介文から、抽象的な表現を見付け、具体的な表現に直している。

A：Bに加え、友達の表現を修正前と後とで比較しその良さを指摘している。

< 判断基準 B 例 >

「安いお菓子がたくさんある」 「5円や10円で買えるお菓子がたくさんある」

< 判断基準 A 例 >

「安いだけではどのくらいの値段か分からないけれど、5円や10円で買えると書いてあるので、自分のお小遣いでたくさんおやつが買えることが分かって、その店に行きたくなくなったよ。」